

胆沢ダムがつくる 新たな水文化。



胆沢扇状地の水と大地の歴史

岩手県南部に位置する胆沢平野は、『続日本紀』において「水陸万頃※」と記される水と大地に恵まれた地域です。しかし、胆沢平野に形成された胆沢扇状地はその特異な形から水を引き込みづらく、干ばつや水争いが頻繁に発生していました。先人たちは、堰をたて、水路を引き、荒地を耕地に変えていったのです。そして2013年、先人たちの願いを継ぐべく日本最大級のロックフィルダム「胆沢ダム」が誕生。胆沢平野に広がる田園を潤しながら、新たな水文化の拠点として注目を集めています。

※水と土地(陸)が豊か(万頃)なさま

奥州市DATA 平成28年10月現在
〈人口120,232人 面積993.3km²〉

奥州市は、水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の5市町村が合併して2006年に誕生しました。市の中央を北上川が流れ、北上川西側には胆沢扇状地、東側には北上山地につながる田園地帯が広がり、東端部には種山高原、阿原山高原が連なる緑あふれる豊かな自然に恵まれています。肥沃な大地に支えられ、稲作を中心とした複合型農業による、県内屈指の農業地帯です。

「利水」と「治水」で国土を守る日本のダム。

水資源の確保が困難な日本でのダムの役割

現在日本には、建設中のもも含めて3,000を超えるダムが存在しています。ダムの第一の役割は、水を貯めて使いたいときに使えるようにする「利水」です。生活用水をはじめ、農業・工業用水など、毎日大量の水を必要とする日本は、四方を海に囲まれながらも、実は水資源を確保するには大変厳しい条件を課せられています。まず、南北に細長い地形によって急峻で短い河川が多いことから、世界平均の2倍と言われる降水量も、短時間で海へ流出してしまいます。さらに雨は梅雨期と台風期の短期間に集中していることから、常に安定した水の量があるとは言えません。こうした状況からも、水を確保しておくことのできるダムが、いかに重要であるかが理解できると思います。またダムは、水を貯めておくだけでなく洪水調整機能も備えています。梅雨や台風など大量の雨が降った場合には、水が川に流れ込むのをせき止め、下流域で暮らす人々を洪水の被害から守る、いわば「治水」の役割も果たしています。

他にも、川の正常な流水機能を維持し、河川の渇水を防ぐことで生態系への影響を軽減したり、水圧を利用した水力発電を行うなど、多目的な働きを持ったダムも多く存在し、日本各地の水環境を支えています。

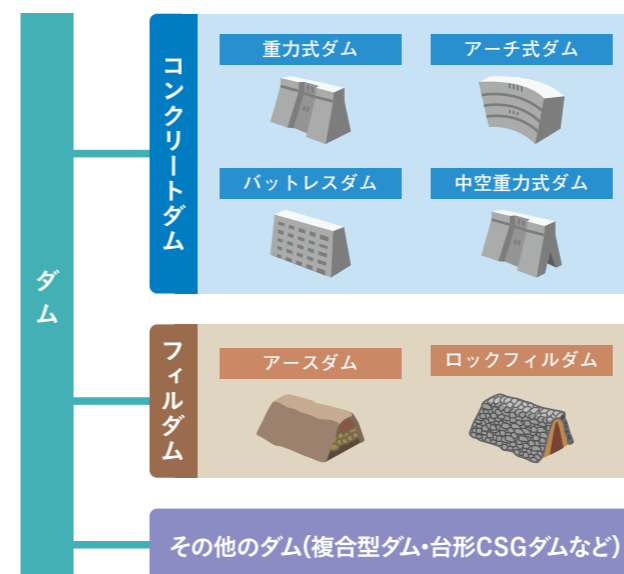
胆沢の地を潤してきた2つのロックフィルダム

日本で建設されているダムは、材料や工法によってさまざまな型式に分類されます。大きく分けると、コンクリートでつくる「コンクリートダム」、岩と土でつくる「フィルダム」、それらを組

み合わせた「複合型ダム」があり、ダムに求められる役割や建設する場所や地形、地質によって最適な方式が選択されます。ダムと言えば、多くの人はコンクリートの巨大な建造物を思い浮かべると思いますが、実は19世紀まではフィルダムが主流で、建設数もコンクリートダムより多かったと言われています。フィルダムには、土を利用した「アースダム」と岩を利用した「ロックフィルダム」がありますが、国内ダムの約10%をロックフィルダムが占めています。ロックフィルダムは、外観は岩が積み重ねられているように見えますが、コンクリートダムに比べて比較的地盤が弱い場所でも大きなダムをつくりやすいのが特徴です。

日本で初めてロックフィルダムの建設が着手されたのは、奥羽山脈の焼石連峰を源流とする北上川水系胆沢川に建設された「石淵ダム」です。石淵ダムは、もともと「重力式コンクリートダム」として計画されていましたが、終戦直後でセメントの生産量が落ち込み入手が困難だったことや、近くに良質のロック材を採取できる原石山があったことなどからロックフィルダムになりました。この石淵ダムは、広大な胆沢平野を潤す恵みの水瓶でしたが、現在はその姿を見ることができません。石淵ダムの下流約2キロメートルの地点に、ダム能力が大きく上回る日本最大級規模のロックフィルダム「胆沢ダム」が建設されたからです。なぜこの胆沢の地に2つのダムが生まれたのか、その背景には、ずっと昔から水に挑み、水と闘いながら豊かな郷土をつくりあげていった、先人たちの苦闘の歴史が刻まれています。

○ 型式によるダムの分類一覧



1953年に完成した石淵ダム(左)と、2013年に完成した胆沢ダム(右)。湖の大きさから総貯水量が格段に変わったことがわかります。(写真提供：胆沢ダム管理支所)



水に挑み続けた先人たちの努力の軌跡。

傾斜状に形成された扇形の大地

石淵ダム、胆沢ダムの建設地は、胆沢平野の大半を占める胆沢扇状地の要に位置しています。扇状地とは、土砂などが山側を頂点として扇状に堆積した地形のことを言います。胆沢扇状地は険しい奥羽山脈を削りながら流れた胆沢川によってつくられた東西20キロメートル、面積1.5万ヘクタールの日本最大級のスケールを有しています。しかし、一般的な扇状地とは違い、胆沢川が上流から大量の砂礫を運んで扇状地をつくる一方でこれを浸食し、長い年月をかけて大規模な隆起や沈降が繰り返されたことで6段の河岸段丘が形づくられた傾斜状になっています。その最も土地が低い北側を胆沢川が流れているため、扇状地全体に水を引くのが非常に困難になっています。そのため胆沢平野では、昔から度々干ばつに見舞われ、農作物が大きな被害を受けたのははじめ、水源である胆沢川の水が枯渇しては水争いの原因になっていました。さらに台風による被害も人々を苦しめ、広大な大地を潤すために、先人たちは必死に溜め池や水路をつくる技術を高めることで、少しずつ原野を農地へと変えていきました。

先人たちの知恵と汗で築かれた用水建設の歴史

胆沢平野において、現在確認されている中で最も古い用水路が「旧穴山堰」です。これは1999年10月に、胆沢ダム建設に伴う建設場所の文化財や遺跡調査を行った際に発見されたもので、今から約500年前に開削されたと言われていたものの、いつ、誰がどのようにつくったか正確なことはわかっていません。全長約18キロメートル、そのうち3キロメートルが山の下を通るトンネル水路になっています。土木技術も道具も未発達だった当時、掘削はかなりの難工事であり、高度な土木技術が

この地域にあったことがうかがえるなど、胆沢の水文化の最古の遺産として大変貴重な堰であると言えます。

さらに広い胆沢平野の開拓にあたり、大きな役割を担ったのが茂井羅堰と寿安堰の2つの用水路です。茂井羅堰は、旧穴山堰とほぼ同時代、1570年頃に北郷茂井羅という女性が、水不足に苦しむ人々の姿に心を痛め、私財を投げ打って用水を開削したと言われています。胆沢川に沿って西から東へ延びており、高低差が小さく、つくりも簡単のため、トンネルになっている旧穴山堰よりも工事はしやすかったと考えられます。一方、胆沢平野のほぼ中央を潤している寿安堰は、江戸時代初期、1618年に伊達政宗の家臣、後藤寿安が着工しました。後藤寿安は水沢福原の領主であり、キリスト教を信仰するキリシタンだったため、江戸幕府がキリスト教を禁じると事業半ばにして追放の身となってしまいました。その後、千田左馬と遠藤大学が事業を引き継ぎ1631年に完成。この大事業によって、それまでは小さな沢沿いで不安定な稲作を余儀なくされていた地域に安定して水がもたらされ、穀倉地帯・胆沢の骨格ができたと言われています。胆沢地方には、これらをはじめとする数々の功績を讃える開発の記念碑が、今もなお数多く残っています。

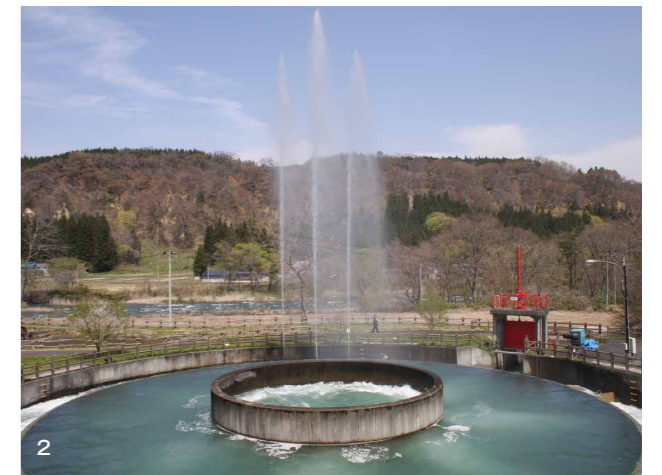
水不足と水争いを解決したダムの誕生

このように、胆沢平野では500年も前からかんがい用水を確保するためにさまざまな工事に挑み、水田を拓いてきましたが、南の端の最も高い段丘上には、なかなか水田を拓くことができませんでした。そしてついに、この高台の土地まで水を運ぶことを可能にしたのが、石淵ダムの完成でした。石淵ダムの建設は、胆沢川が合流する北上川流域の洪水被害や水不足

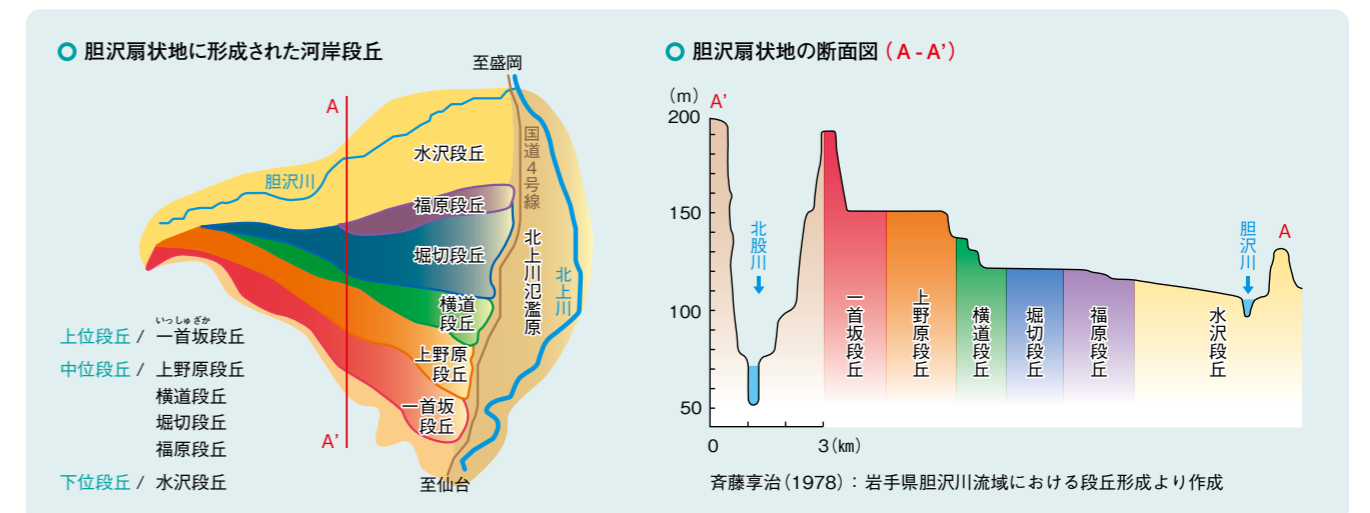
を解消するために1941年に策定された「北上川上流五大ダム計画」の一つとして、胆沢川の北上川合流地点から約2キロメートル上流の地点に計画されました。終戦直後の不安定な社会情勢下の1946年の着工だったため、建設に要する資材や労働力、建設機材の確保に非常に困難を要しましたが、1953年に五大ダムの最初のダムとして石淵ダムは完成しました。7年の年月と建設に関わった多くの人の血と汗、そして移転を余儀なくされた地元の人々の協力によって、約1,200万トンのかんがい用水が確保されるようになったのです。さらに1958年には当時としては画期的な円筒分水工が完成しました。これは、胆沢平野の農業用水を公平に配分するための分水施設で、それまで茂井羅堰と寿安堰では水の分け方をめぐって争いが絶えませんでした。ようやく解決を迎えました。

石淵ダムの完成後、水の恵みによって農業生産をはじめ地域経済も大幅に発展しました。終戦直後で食べるものが不足していたことから、食料増産の拠点として胆沢の人々はひたすら米を作り続け、東北有数の穀倉地帯へと成長させていきました。しかし、ダムのかんがい利水容量が少ないことに加え、1千ヘクタール以上が開田されると、胆沢平野は再び慢性的な水不足に悩まされるようになりました。そこで、「石淵ダムの嵩上げ運動」が始まりましたが、その願いは石淵ダムに代わる新たなダムの建設計画へ繋がっていきました。1988年より、石淵ダムの下流2キロメートル地点に約9倍の容量を誇る胆沢ダムの建設が始まり、2013年の完成にともなって大切なダムの役割は引き継がれていきました。

黄金色に輝き、悠々と風にたなびく稲穂。現在、胆沢平野で見られる美しい秋の風景は、多くの先人たちの努力と苦悩、挑戦によって育まれた“実り”そのものなのです。



- 1: 収穫時期を迎えた胆沢平野。水田の中に屋敷林に囲まれた家々が点在する散居景観は、日本でも数少ない村落景観の一つです。
- 2: 現在の円筒分水工は1995年に改修されたものです。運転期間中、定期的に噴き上がる3本の噴水は、「胆沢ダム」「土地改良区の組合員」「胆沢平野土地改良区」を表しています。(写真提供：胆沢平野土地改良区)
- 3: 円筒分水工に隣接した公園(徳水園)には、茂井羅堰、寿安堰の開削に関わった人々の徳を偲んで多くの石碑が佇んでいます。



胆沢ダムから創造する豊かな水風土。

日本最大級のロックフィルダム・胆沢ダムの誕生

胆沢ダムは、石淵ダムと同じくロックフィル方式でつくられ、堤体積1,350万立法メートル、堤体高さ127メートル、総貯水量1億4,300万立法メートル、湛水面積4.4平方キロメートルで、このタイプでは日本最大級の堤体となります。胆沢ダムは、多目的ダムとして川の流量の確保、発電、水道用水の補給などさまざまな働きをしていますが、特に大きく改善したのが、かんがい用水の供給量と洪水調整機能です。これまでは慢性的な水不足によって順番で田に水を引く「番水制」を強いられ、2004年の渇水時には散水車による用水補給など多大な労力を必要としてきましたが、約13倍となった利水容量により約9,300ヘクタールの農地へかんがい用水を供給できるようになり、干ばつ被害を軽減させることができました。また洪水調整容量も9倍以上となっています。2015年には、大きな渇水被害を出した1994年以来21年ぶりの渇水に見舞われましたが、胆沢ダムからの水量補給によって無事に穂ばらみ期を守り抜くなど、大きな成果を出しています。

ダムによる地域の発展と新たな水文化の発信

ダムの周辺は、自然環境の面からも重要な水源地域であると言えます。胆沢ダムにおいても、奥州湖と名付けられたダム湖周辺にはクマタカや岩手県の天然記念物である「ユキツバキ群落」など希少な動植物が確認されており、定期的に調査・保護を行っています。また、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化と流域圏の発展を目的とした水源

地域ビジョン*をもとに、さまざまな取り組みが計画されています。例えば、胆沢ダムの周辺には眺望広場や親水公園、交流館、カヌーコースなど新たに観光やレクリエーションの場を設けています。また気軽に胆沢ダムを訪れてもらうために、カフェやカヌー体験、堤体登山などの多彩なイベントを開催しています。今後はさらに、地域住民や活動団体、企業が一体となって、ダムと雄大な奥州湖の環境を利用した多彩なプロジェクトへの期待が膨らんでいます。

近年、国土交通省では民間ツアー会社と連携し、ツアーの一環としてダム現場を案内するダムツーリズムを推奨するなど、ダムを観光資源化する動きが高まっています。またダムを訪問した人に「ダムカード」を配布したり、ホームページで雄大なダム写真を公開するなど、ダムを楽しんでもらうための多くのコンテンツを発信しています。今、ダムは、私たちの暮らしを守るものから、より身近で親しい存在へと変わろうとしています。胆沢扇状地に誕生した胆沢ダムも、地域に暮らす人々の生活環境を改善しただけでなく、地域の新たなランドマークであり水風土のシンボルとして、この地域の発展や新たな文化発信の拠点として注目を集めています。ダムをつくることは、まちをつくることです。多くの人々がダムに集い、親しみを持って足を運ぶことで、まちを支えるダムの存在を理解してもらうことができます。そして、満々たる水と緑に彩られたダムの景観を眺めるたびに、多くの先人たちが抱いた夢や願い、そこにいたる努力を、しっかりと語り伝えてくれることでしょう。

*水源地域ビジョンは、2001年4月から作成が開始されることになった、ダムを活かした水源地域活性化のための行動計画。



胆沢ダムの建設にともないつくられた奥州湖は、湛水面積が4.4平方キロメートルと広く、周辺のブナ林とともに四季折々に景観を楽しませてくれます。

○ 石淵ダムと胆沢ダムの比較 (北上川ダム統合管理事務所のHPより)

	型式	石淵ダム		胆沢ダム		比較
		表面遮水壁型 ロックフィルダム	中央コア型 ロックフィルダム			
ダム	堤頂標高	m	EL 323.0	EL 364.0		—
	堤高	m	53.0	127.0		約2.4倍
	堤頂長	m	345.0	723.0		約2.1倍
	堤体積	m ³	44万2千5百	1,350万		約30倍
貯水池	流域面積	km ²	154.0	185.0		約1.2倍
	湛水面積	km ²	1.1	4.4		約4倍
	総貯水容量	m ³	1,615万	1億4,300万		約9倍
	有効貯水容量	m ³	1,196万	1億3,200万		約11倍
	洪水調整容量	m ³	560万	5,100万		約9倍
	利水容量	m ³	636万	8,100万		約13倍



- 1: 胆沢ダムのふもとにある奥州湖交流館では、胆沢の郷土や歴史、文化を学ぶことができます。
● 会館時間 / 4月第2土曜日～11月30日 ● 開館時間 / 午前9時～午後4時30分 [入場無料]
- 2: 「ダムフェス2016 in 夏」では、ダムを眺めながらコーヒーがいただけるダムカフェや堤体登山、ラフティング体験会などさまざまな企画が催されました。
(写真提供: 胆沢ダム管理支所)

【取材協力・写真提供・資料提供】

北上川ダム統合管理事務所 / 胆沢平野土地改良区

【参考資料】

- 水陸万頃 水と暮らそういつまでも (胆沢平野地区 県営農業用水再編対策事業 完工記念誌)
- 巨大ダムの“なぜ”を科学する (西松建設「ダム」プロジェクトチーム 著 / 株式会社アーク出版 発行)
- ダムと堤防 (竹林征三 著 / 鹿島出版会 発行)
- 湖水を拓く 日本のダム建設史 (高崎哲郎 著 / 鹿島出版会 発行)
- 北上川ダム統合管理事務所 ホームページ / 胆沢平野土地改良区 ホームページ
- ダムコレクション ホームページ



奥州サボン

奥州のお米は、お肌にも美味しい！
発酵の力が活かしたスキンケアソープ。

奥州サボンは、奥州のお米に麹と酵母を加え、低温で60日間じっくり熟成させてつくった無香料・無着色の石けんです。発酵によりお米の力を最大限に引き出し、時間をかけて原料をなじませているため、肌への負担が少なくしっとり潤いを残します。発酵の専門会社「ファームステーション」が、製造過程で廃液を一切出さず、環境にやさしい製法にこだわり、仕込みは全て手作業です。奥州で生まれ奥州で育った石けんは、人へのやさしさが詰まっています。

ここで購入できます



フリーマーケット産直おだづめ

岩手県奥州市胆沢区若柳字大立目19
☎0197-46-3780

営業時間 / 午前10:00～午後3:00 (夏季)
午前11:00～午後2:00 (冬季)

定休日 / 月曜、第1・3日曜

古民家を移築・復元改修したトレーニング農場セミナーハウスの敷地内にあり、奥州サボンははじめ、地元の新鮮野菜や生花、リサイクル商品などこの地域ならではの商品が揃っています。敷地内には、地元の素材を活かした農家レストランが並び、地域の人々の憩いの場所としても人気を集めています。



他にも
お米を使った
色々な商品が
あります

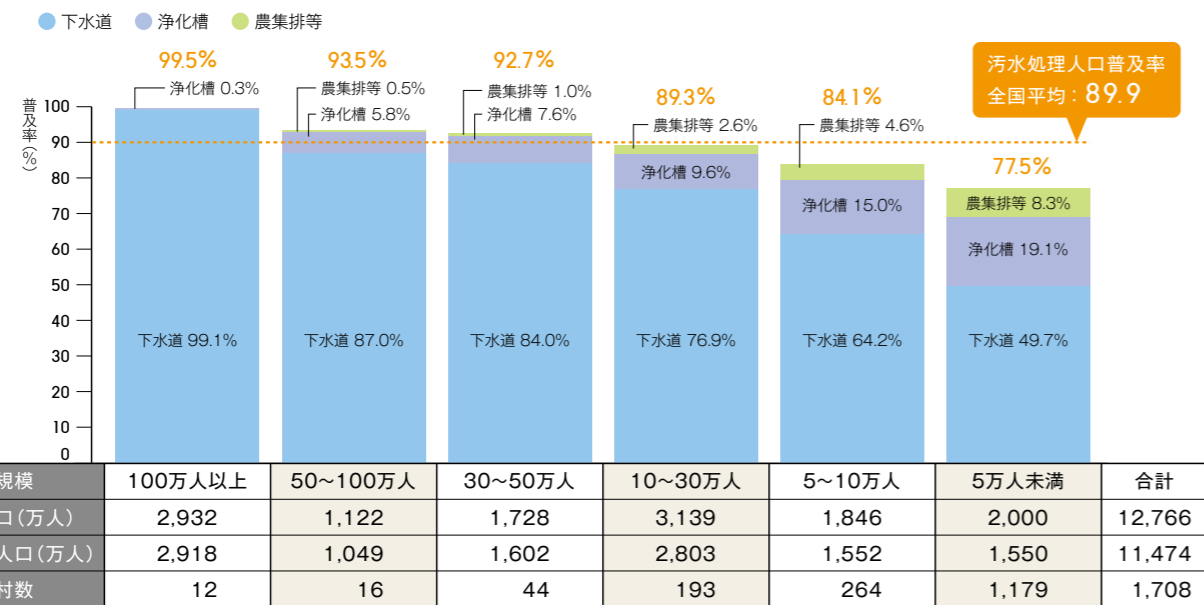
平成27年度末の汚水処理人口普及率は89.9%

約1,300万人が
未だ汚水処理施設を利用できない状況

平成27年度末時点における全国(福島県の11市町村を除く)の汚水処理施設の処理人口は、1億1,474万人となりました。これを総人口に対する割合でみた汚水処理人口普及率は、89.9%となり、89.5%だった平成26年度末と比べると、ほぼ横ばい状態であり、未だに約1,300万人が汚水処理施設を利用できない状況だと言えます(参考1)。また、わが国における汚水処理人口普及状況は、大都市と中小市町村で大きな格差ができています。人口10~30万人規模以下の市町村が平均普及率を下回り、特に人口5万人未満の市町村の汚水処理人口普及率は77.5%にとどまっている状況です(参考2)。

汚水処理未普及地域は人口散在地域に多いことから、自治体財源をはじめ人口減少や高齢化などの社会情勢を見据えた対策が求められます。さらに汚水処理施設の早期(10年)概成を目指すためには、経済効率性、個別処理による整備の柔軟性、短工期による投資効果の即効性など、浄化槽が持つ優れた特長を活かした「生活排水処理基本計画」の策定・見直しが必要と考えられます。

(参考2)平成27年度末の都市規模別汚水処理人口普及率



出典：環境省、国土交通省、農林水産省

注)1. 処理人口は四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。
2. 平成26年度調査は、福島県において、東日本大震災の影響により調査不能な市町村があるため、福島県全域を除いた値を公表している。
3. 総市町村数1,708の内訳は、市 790、町 738、村 180(東京都区部は市数に1市として含む)
4. 都市規模別の各汚水処理施設の普及率が0.5%未満の数値は表記していないため、合計値と内訳が一致しないことがある。
5. 平成27年度調査は、福島県において、東日本大震災の影響により調査不能な市町村(相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村)を除いた値を公表している。

新商品

窒素・リンを除去するオンリーワンの浄化槽がリニューアル ランニングコストを削減させたCRXII型が新登場!

話題のCRX型からCRXII型へ

生活排水に含まれるリンは、湖沼(水源ダム)や内湾など閉鎖性水域を富栄養化させ、アオコや赤潮の発生を引き起こすなど水域環境を悪化させます。フジクリーンでは、2002年に世界で唯一、窒素・リンを除去できる小型浄化槽としてCRX型を発売。環境大臣賞をはじめ数々の賞を受賞するなど、オンリーワンの商品として注目を集めてきました。

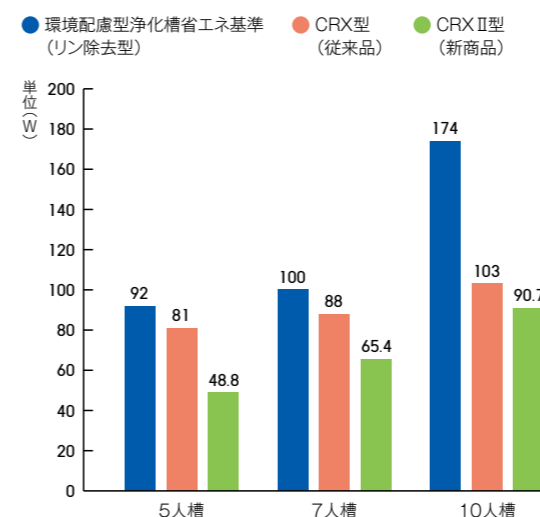
そして2016年11月、CRX型をリニューアルしたCRXII型がいよいよ登場しました!ランニングコストの削減と同時に施工性、維持管理性を向上させ、より使いやすい機種となりました。ランニングコストについては、消費電力が5人槽で48.8WとCRX型(従来品)の約6割を実現しました。月々の電気代に換算すると949円*1と家計にもやさしくなっています。また、鉄電極の交換頻度もCRX型(従来品)の4か月に1回から、8か月に1回になり交換費用の削減も期待できます。施工性については、ブロワ1台、配管1系統とし、さらに槽内落差を50mmにしたことで、設置レイアウトの自由度が大幅に拡大。維持管理性においては、シンプルで維持管理のしやすさに定評のある接触ろ床方式を採用しました。

ここが向上! 3つのポイント!

- 1 電気代の削減や鉄電極の交換頻度を少なくし、ランニングコストを低減
- 2 配管1系統や槽内落差50mmにより施工性を向上
- 3 接触ろ床方式を採用し、維持管理性を向上!

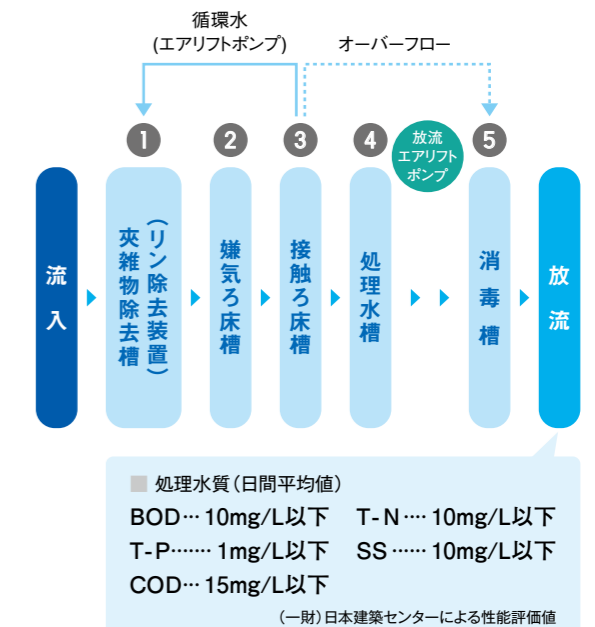


消費電力の比較



5人槽で48.8W、月々の電気代は949円*1と家計にやさしい浄化槽です。省エネ基準のおおむね半分の消費電力で、低炭素社会に貢献します。

*1 新電気料金目安単価27円/kWh



新商品

あらゆる自動逆洗浄化槽に対応するブロワ、UniMB新登場!

Point 1

便利な機能が特長の
タイマ設定

Point 2

タイマ操作部の
開閉はワンタッチ!
メンテナンスもスムーズに



UniMB 外観

タイマの設定から操作まで、使いやすさ抜群!

自動逆洗が必要な浄化槽に不可欠のタイマ付ブロワ。逆洗回数と逆洗時間の設定は、各メーカーの機種によって異なります。新製品UniMB (Universal multi blower) はそれぞれの機種が求める逆洗回数、逆洗時間のタイマ設定を搭載し、簡単な操作で設定することが

できます。さらに浄化槽の使用状態に応じて、逆洗回数や逆洗時間を自由に設定することもできます。また、タイマ操作部のカバーはヒンジ形状を採用しているため、工具を使わずにワンタッチで開閉が可能です。エアフィルタも操作部と同じ箇所に入れてあるため、メンテナンスも簡単に行えます。

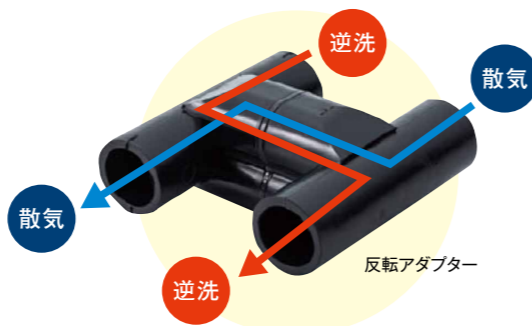
■ プログラム選定表

※浄化槽メーカーの法人名称は省略

プログラム ナンバー	逆洗設定		浄化槽メーカー	対応浄化槽機種 (人槽)		
	回数	時間		UniMB 60L/min	UniMB 80L/min	UniMB 100L/min
P1 (初期設定)	3回	10分	フジクリーン工業		CF (5)、CFII (5)	CF (7)、CFII (7)
P2	1回	5分	日立ハウステック		KGF2 (5、7、10)	
			日立ハウステック		KGR2 (5、7、10)	
			積水アクアシステム		SGCII (5、7、10)	
P3	2回	5分	ニッコー		NSR (5、7)	NSR (10)
			大栄産業		FCP (5、7)	FCP (10)
			大栄産業	FCS (5、7)	FCS (10)	
			前澤化成工業		VRC (5、7)	VRC (10)
P4	1回	10分	クボタ		HC (5、7、10)	
			積水化学工業		SGC (5、7、10)	
P5	3回	10分	ハウステック		KTG (5)	KTG (7)
P6	2回	20分	ダイキアキス		MCP (5、7)	MCP (10)
自由設定	逆洗回数1、2、3、4回 逆洗時間2、5、10、15、20分					

反転アダプターの標準同梱で取り付けも簡単!

標準付属品として、散気・逆洗の左右の向きを反転させる「反転アダプター」を同梱していますので、散気・逆洗の左右の向きに関係なくブロワ選定ができるので取り付け時も安心です。



反転アダプター

Web
サービス

ブロワの商品情報ページが 使いやすくなりました!

フジクリーンのホームページでは、各種商品情報を公開しています。ブロワについて、次のようなお問い合わせを多くいただいていた。①旧機種の後継機種(代替品)が何か知りたい ②補修部品の供給状況を知りたい ③機種ごとの共通部品を知りたい ④補修部品の名称や品番を知りたい

そこで2016年11月より、ブロワの商品ページをリニューアルし、より見やすく、使いやすくなりました。

ここで2016年11月より、ブロワの商品ページをリニューアルし、より見やすく、使いやすくなりました。

目的別タブを設置

希望する機種や部品をより早く検索できるように、「現行機種一覧」「後継機種を探す」「補修部品を探す」の3つのタブを設置しました。

補修部品一覧表を追加

それぞれのブロワの使用部品がわかる一覧表を追加しました。「補修部品を探す」のページの最上部に出てくる「すべての機種の補修部品一覧はこちら」のボタンをクリックすると、一覧表(PDF)が表示されます。部品の供給状況もご確認いただけます。

ぜひ、ご利用ください!



【後継機種の検索方法】

- 1 ブロワのページに新たに設置した3つのタブのうち、「後継機種を探す」をクリックする
- 2 機種一覧より、該当するシリーズをクリックする
- 3 該当する吐出風量(L/min)をクリックすると後継機種の画像が現れます
- 4 該当する後継機種の写真をクリックし、各商品ページへ

Event

浄化槽製造工場見学会で、 フジクリーンの3工場が見学されました

一般社団法人浄化槽システム協会では、集合処理と個別処理のベストミックスによる生活排水処理施設の早期概成を進めることを目的に、浄化槽製造工場見学会を開催しました。見学工場の10工場のうち、フジクリーンの3工場でも見学会が実施され、ご参加いただいた市町村の浄化槽行政の担当者、浄化槽の構造・機能および浄化槽の施工や維持管理の説明とともに、生産ラインを案内しました。



組織体制
の変更

高知営業所が 移転しました

高知営業所が業務拡大にともない、事務所を移転しました。新事務所は以下になります。

〒781-0013

高知県高知市薊野中町2-12 101号

TEL 088-803-1520

FAX 088-803-1521

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

NPO法人
穂の国
森づくりの会



森への意識と関心を高めながら、 水と緑があふれる『穂の国』をつくっていく。



小学校への出前授業



森林整備体験
(上: 植樹 下: 間伐)

(写真提供: 穂の国森づくりの会)

かつて『穂の国』と呼ばれた東三河地方は、豊川による「治水」や「利水」に苦勞してきた歴史から、森や水への意識がとて高い地域です。20年前に地元の青年会議所がまちづくりに関するアンケートを行った結果、「緑と水にあふれる街」を望む声が多く、設立されたのが「穂の国森づくりの会」です。当時、豊川上流の山の整備が遅れており、水源涵養機能の低下や、土砂災害、水害などが懸念されていたこともあり、商工会議所や森林組合にも参画いただき、多くの会員を集めることができました。

現在の活動は、主に2つの軸で取り組んでいます。1つは「森づくり活動」として、豊橋市石巻町にある国有林と豊川市平尾町にある私有林をお借りし、下刈りや除伐、植林といった作業を行っています。また豊川市平尾町内の私有林では、会員がキャンプやツリーハウス、虫取り体験といった野遊びができるフィールドづくりも進行中です。もう1つは「環境教育活動」と

して、豊川市内の小学校で行われる野外活動で森林案内や出前授業を担当しています。他にも社会貢献の一環として森づくり活動を希望される企業に対し、場所探しや具体的な活動のサポートをしています。また有志メンバーによるプリティフォレストクラブでは、目の届きにくい小規模な森林の整備活動や、企業の森づくり事業の作業指導など、自主的なサークル活動として幅広い森林ボランティアを実施しています。

設立から20年が経ち、手入れの行き届いた森林が増えただけでなく、企業や学校など、森林と関わる人の輪が広がってきました。しかし、初めて森づくりに参加した人の多くから、「木を切ることは悪いことだと誤解していた」という声を聞くなど、手を加えることで森は育つという現実を知らない人は少なくありません。今後もより多くの方に森に関心を持っていただくことで、山が整備され、山が潤い、豊かな水が戻るといった良い循環をつくっていきたいと考えています。

美しい水を守る フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中種区今池四丁目1番4号 〒464-8613 TEL(052)733-0325 <http://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)882-1222	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)815-0682	鹿屋営業所 (0994)43-4437
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	沖縄営業所 (098)862-9533
郡山営業所 (024)944-7780	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2017年1月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室